

# 飛鳥白鳳時代の美術

「世界の美術」三冊にそえて

大阪 矢田 清

古代仏像はすべて童形童顔で、決して成人の比例でないのは何故か。これは古文獻によると、童形こそ世の汚れにそまぬ、純粹な仏の境界に最も近いものであるからとて、古人造仏に臨んでは必ず幼童をモデルにしたとあり、されば顔はもとより手足の甲高く、又その指も親指と小指とが長さに於いて大差なく、事実この点は後世の仏像とて同じく右の法則を守って居ります。

白鳳期の最大傑作奈良薬師寺藏の諸尊、あまりうまく出来過ぎていたので、或いは天平時代作ではないかなど——。しかしこの諸尊製作は、多分大陸渡來の漢人作と思われるまで、こういうものは中々ちょっと習った位では駄目で、完成するまでには幾多の失敗作があります。

台座の下には大理石を敷いたという事ですが、これも支那代理山からの輸入でしょう。代理山より産出故この

称がありますが、台所のコンロとて火を噴く山の崑崙山こんろんざんから來たらしく、すべて名称には夫々理由があつての事です。

木彫の用材たる樟くすは、蟲害防ぎとして最適の材で、木彫はほとんどが樟材です。乾漆かんじは元來運搬を楽にするため考案されたもので、中国上代では五丈・八丈という巨大像も作つたとある。然し日数がかかるのと、漆うるしが高くつく事から、日本では巨大像は作られず、すぐ材料豊富な木材像がとって代りました。

壁面に使用された絵の具は、現在市販の日本絵具と變る事なく、描写に際しても各絵具屋が、丹誠こめて製したものを採用したもので、正倉院御物中にも、真鍮皿に溶いて指でまぜたあとのある絵具皿約四十枚が残り、それを見ますとむしろ今の絵具よりも上質に見うけられま

す。

さて、定着に膠を使つたかですが、古書によれば、仏様を描くの<sup>にけもの</sup>皮から採つた膠を使つては仏罰が当るとして、桃の枝に出るネバリを採つて来て代用したとかいう事ですが、一千三百余年経過してもさまで落ちていないところを見ると、あるいはそうかも知れません。

この直立した白壁に、肥瘦<sup>ひせう</sup>のない鉄線<sup>てつせん</sup>を一気に引くということは、よほどの熟練を要し、この模写生一日僅か二寸四方しか進まぬらしく、こんな事をしていたら、壁画だけでも三十年はかかりましようか。当時唐では線描きに肥瘦のある呉道子一派と、鉄線描法の<sup>うつけい</sup>鬱尉派の両派があつたらしく、その鬱尉派中の腕の立つたのが、弟子約十人位で仕上げたというのです。

(本会顧問・画家・大阪市淀川区十三東町)

### 寄贈図書紹介

次の通り各方面から図書・雑誌のご寄贈がありました。事務局に常置・会員の利用に応じています。貸し出しもいたします。

懺悔の生活 (西田天香著)

宮崎県北川町 小野 茂氏より

世界の美術 (週刊朝日百科「鎌倉時代の美術」 「絵巻の

世界」 「室町時代の水墨画」 の三冊

大阪市淀川区十三 矢田 清氏より

海部考・豊後水道・漁村の社会構造

大分市大分大学 富来 隆氏より

教聖「広瀬淡窓先生夜話」

——咸宜園とその生涯—— (大久保正尾著)

著者大久保正尾氏より本会に惠贈

(購読希望者は事務局へ電話を、取り次ぎします。)

県内諸家寄託文書目録 大分市大分県立大分図書館より

戦国武士の系譜に関する一考察

東京都狛江市 福川一徳氏より

緒方町の文化財 (緒方町教育委員会著)

大野郡緒方町 三代亀氏より

風雪の辞 (故北村清士先生遺詠)

竹田市奥の谷 北村憲之氏より

かわりゆくふるさと (写真集)

南海郡郡上浦町教育委員会編 同 教育委員会より

山菜譜 (東京 片岡 博著) 著者片岡氏より

土佐史談 一五三号 高知市 土佐史談会より (交換)

歴史手帖 六号 東京 名著出版社 (交換)